

水環境ニュース



阿武隈川フォトコンテスト2020入賞作品

(主催：阿武隈川サミット実行委員会)

①最優秀賞「煙霧の秋舞台」(二本松市) ②優秀賞「朝光」(西郷村)

第18回猪苗代湖・裏磐梯湖沼フォトコンテスト入賞作品

(主催：猪苗代湖・裏磐梯湖沼水環境保全対策推進協議会)

③最優秀賞「晩夏毘沙門沼」(毘沙門沼)

④優秀賞「光差す朝」(秋元湖)

⑤優秀賞「透ける湖底」(猪苗代湖)

「水環境ニュース」では、県内各地で取り組まれている水環境活動など、水環境に関する情報を発信しています。

今号の記事内容

○水環境活動紹介

・水環境団体：特定非営利活動法人 輝く猪苗代湖をつくる県民会議、鮫川流域ネットワーク、夏井川流域の会、西郷くらしの会、はげっ子倶楽部、ふるさとの川・荒川づくり協議会

○県内の湖沼紹介

・沼沢湖

○編集後記

水環境活動紹介

福島県水循環協議会構成員の令和2年度水環境活動を紹介します。

特定非営利活動法人 輝く猪苗代湖をつくる県民会議

沈水植物の回収除去



猪苗代湖の北部水域に生育繁茂し、枯れて、腐食し、溶解、微塵化してCOD上昇の要因となる天神浜や松橋浜に漂着するセキショウモやヒメホタルイ等の沈水植物を回収除去します。（さらに回収したこれらの植物質を有機資源として活用する方策を試行しつつあります。）

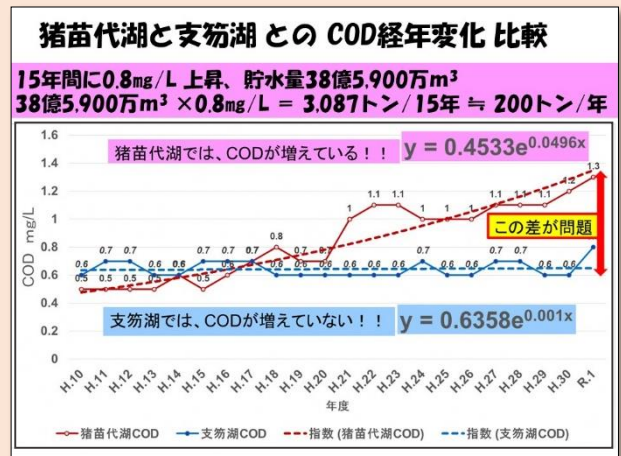
令和2年度には、10月3日から11月8日の間毎土日午前中活動しました。（10月10日は台風14号のため中止）計11回。参加ボランティア人数791名、回収量176.3m³。

平成21年度に始めて令和2年度まで17,272人参加、回収実績1,936m³。これは大型ダンプトラックで200台以上に相当します。

【参考】猪苗代湖の水質



猪苗代湖は郡山市や会津若松市の水道水源であり、平成14年頃には支笏湖と並んでCOD（化学的酸素要求量）が0.5mg/L程度で環境省から水質日本一と評価されておりました。しかし、令和2年度の環境省発表では、COD1.3mg/Lで15位にまで下がりました。



鮫川流域ネットワーク

小学校での水生生物調査支援



6月23日、26日、7月21日、30日の4日間、入遠野小学校4年生を対象に、入遠野川にて水棲生物の採取、観察、教室にて採取した生物の生態説明を行いました。この活動は、児童たちの環境保全への関心を高めることを目的としています。児童たちの中には初めて川に入る児童もあり、慣れないながらも楽しみながら生物採取に取り組んでいました。参加した児童たちからは「川の生き物についてもっと知りたい」、「今のきれいな川を守りたい」などの感想がありました。

夏井川流域の会



夏井川川下り

10月4日、川の楽しさを満喫してもらおうと、いわき市平鎌田の夏井川左岸親水公園にて「第7回夏井川かわくだり」を実施しました。主催者含め50名の参加を得て、カヌーやボートで新川合流点までの1.8kmを下りました。その他、きき水、石重さ当てクイズ、水生生物調査、笹船競争等にも挑戦してもらいました。参加した子供たちからは楽しかったという声が聞かれ、疲れも吹き飛びました。

西郷くらしの会



ステップアップ講座

9月5日開催の水生生物による水質調査の指導者の同定能力の向上のための講座（17回目）を行いました。

会場は西郷村役場会議室、堀川ダム上流堀川。

講師は福島大学塘忠顕教授。参加者は15名。本年度は広く参加者の募集は行いませんでした。

参加者から毎年開催の要望があること、また、水生生物の同定は顕微鏡下でも難しく継続が必要なことなどもあるため行っております。詳しい知識がある子どもの参加者があり、次の世代に繋がることを期待しています。



はげっ子倶楽部



牛蛙駆除と水生昆虫調査

ウシガエル駆除を始めて5年目となりました。

6月7日（日）梅雨まえの青空のもとに24名（小学生以下が7名）が参加しました。

今回の駆除活動では、ウシガエルもオタマジャクシも畏にかかりませんでした。また、近くの池で行った生物調査では、コオイムシ、マツモムシ、アカネ幼虫などの数が増えている事が分かり、ヨシ原ではすでにアオヤンマやクロスジギンヤンマが飛んでいました。大潮の干潮なので、子どもたちは岸辺でヤドカリやカニなど海の生き物も楽しみました。

子供達にとっても、良い場所と時間なのではないかと思えます。

ふるさとの川・荒川づくり協議会



鮭稚魚放流会

1月22日（金）荒川右岸さくらづつみ河川公園北側において、阿武隈川漁業協同組合の協力及び国土交通省福島河川国道事務所並びに福島市河川課のご支援ご理解を得て、毎年行っている鮭稚魚放流会を開催しました。

県内の湖沼紹介

県内の湖沼を紹介します。

沼沢湖

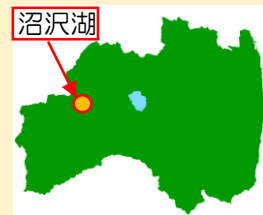
金山町にある「沼沢湖」は約5,600年前に火山の噴火によってできた二重式カルデラ湖です。

外輪山に囲まれ、季節ごとの天候により、きわめて多くの表情を見せ、対岸の「惣山（そうやま）」が湖水に写るシルエットは美しく、周囲約7kmの、小さな湖ながら豊かな自然を感じる事が出来ます。

一帯は、只見柳津県立自然公園に指定されており、神秘的な湖水周辺はミニリゾート地となっており、大蛇伝説や、妖精美術館などがあります。

また、県内唯一のヒメマスヒメマスの生息地となっており、姿の美しさ、味の良さから町の特産品として珍重されています。

さらに、只見川に近接していることから、湖面との落差を利用した揚水発電が早くから実用化されています。



ヒメマスの保護と活用

ヒメマスの保護と活用による地域活性化を支援する活動の一つとして、県では、魚道の整備を行ってきました。遡上範囲を拡大させるとともに、親水スポットとして壁面の一部をアクリル素材とすることで魚道内を泳ぐヒメマスの姿を真横から水槽のように観察できるように設置されています。



大蛇伝説

昔、沼沢湖には恐ろしい大蛇が棲んでいて、若い美女に化けることが出来、人を惑わせたり襲ったりしていたと伝えられています。

鎌倉時代、当時の領主・佐原十郎義連がその大蛇を退治し、その頭を大蛇の祟りを鎮めるため祀りました。この神社は沼御前神社として実在しています。

※大蛇退治の伝説を再現した「沼沢湖水まつり」の様子

編集後記

水環境ニュースを最後までご覧いただきありがとうございます。

令和2年度は新型コロナウイルスの影響により、これまでに経験したことのない制限された環境での活動となりました。今回紹介させていただいた活動が皆様のご参考となると共に、より一層の活性化に繋がることを願っております。

令和3年度は、少しでも多くの活動が再開できるよう協力していきたいと考えております。

最後に本紙発行にあたり、御協力いただいた全ての皆様に感謝致します。今後も水環境活動を一緒に盛り上げていきたいと思っておりますので、よろしくお祈りいたします。

発行者 福島県復興・総合計画課

〒960-8670 福島市杉妻町2番16号（福島県庁本庁舎5階） TEL (024) 521-7123

ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11015b/>

Facebook <https://www.facebook.com/fukushimanomizu/>

Instagram https://www.instagram.com/fukushima_no_mizu/?hl=ja

